

家庭

Home Economics

小学校家庭科及び中学校技術・家庭科家庭分野(以下、家庭科という)は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立に必要な資質・能力を育成する教科です。

そのためには、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る必要があります。そして、家庭科では、実践的・体験的な活動を通して生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けそれらを活用すること、学んだことを生活に生かす観点から、題材の指導計画に家庭や地域での実践を位置付けることが大切です。

【家庭科のページで使用されている用語解説】

実践的・体験的な活動	衣食住や家族の生活などの家庭生活に関する内容を主な学習対象とする調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの活動のこと。
一般化した言葉でまとめる	実践的・体験的な活動を通して気付いたことを、家庭や地域、社会などにおける様々な場面で活用できる概念として理解できるようにまとめること。
実践（実習）計画	調理・製作等の実習のための計画や家庭・地域で実践するための計画のこと。

1 題材の作り方

家庭科は、第1章の2で示すAパターンの題材の構想が多くなります。よりよい生活の実現に向けて、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践的・体験的な活動を通して生活に必要な知識や技能を習得し、それらを活用して具体的に計画・実践することを通して、課題の解決をすることができるよう題材を構想することが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○よりよい生活（題材の目標）にするために、現在の自分の生活を見直し、問題を見つけさせる。

○題材を通して解決すべき課題について、班や学級全体で話し合わせる。

○一人一人が実感を伴って理解できる実践的・体験的な活動を設定する。

○実践（実習）計画や生活の中で活用できる知識及び技能となるよう、児童生徒の気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。

○計画を立てさせる際は、習得した知識や技能を活用して、様々な解決方法を考えさせる。

○他者からの意見を踏まえて、計画について検討させる。

○実践（実習）の自己評価は、計画どおりにできたことや実践（実習）の中で工夫したことなどについて記録させる。

○「追究する1」で習得した知識や技能を活用して、実践的に学ぶ。

○内容により3と4の学習のどちらか一方を省略することもある。

<例>

商品の選択と購入に関する題材の「追究する2」では、「追究する1」で習得した知識及び技能を活用して、商品を購入するシミュレーションの学習をすることがある。この場合、3の学習は省略することが考えられる。

○実際の生活で生かすことができるよう、実践（実習）の評価を根拠や理由を明確にして発表させたり、他者からの意見を踏まえて改善方法を考えさせたりする。

【家庭・地域での実践】

○題材構成等に応じて、「5「題材の課題」の解決についてまとめたり、振り返ったりする」学習の前に位置付ける場合もある。

過程と基本的な学習活動

つかむ

1 題材の課題を設定する。

- ◇生活の中から問題を見だし、整理する。
- ◇見いだした問題を基に題材の課題を立てる。

【題材の課題】

〈題材の目標に到達するための大きな問い〉

- ◇学習の計画を立てて、題材の学習の見通しをもつ。

追究する

2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

単位時間

【めあて】

- ◇実践的・体験的な活動をする。
- ◇気付いたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。
- ◇気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。

【振り返り】

単位時間

単位時間

1

- ※習得させたい知識及び技能が多ければ、この時数が多くなります。

- ※「生活についての課題と実践」の題材では、この過程は省略されます。

追究する

3 題材の課題の解決に向けた実践（実習）計画を作成する。

- ◇学習した知識や技能を活用して、課題の解決に向けた計画を作成する。
- ◇検討したことを基に、計画を修正する。

2

4 題材の課題の解決に向けた実践（実習）をする。

- ◇3で立案した計画に従って、実践（実習）する。
- ◇実践（実習）を評価する。
- ※3の学習で、家庭・地域での実践計画を作成した場合は、ここは省略されます。

まとめ

5 題材の課題の解決についてまとめたり、振り返ったりする。

- ◇「題材の課題」について、まとめる。

【題材の課題】のまとめ

- ◇4の実践（実習）や家庭・地域での実践を基に、改善策や生活に生かしたいことを考える。

◇題材全体の振り返り

【家庭・地域での実践】

小学校 第5学年

「おいしい楽しい調理の力」(全8時間計画)

【目標】

ゆで野菜サラダの調理を通して、ゆでる調理に関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、調理の仕方を工夫し、日常生活で調理をしようとする実践的な態度を育成する。

1 題材の課題を設定する。

- ◇これまでの調理経験や日常生活を想起することを通して、一人でオリジナルゆで野菜サラダを調理することについて疑問に思うことやできるようになりたいことなどの問題を見いだす。
- ◇問題を基に、題材の課題を立てる。



【題材の課題】一人でオリジナルゆで野菜サラダを作るには、どうしたらよいだろうか。

- ◇一人でゆで野菜サラダを調理するために必要なことを考え、学習の計画を立て、題材の学習の見通しをもつ。

2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

- ①調理実験を通して、青菜のゆで方が分かる。
ほうれん草をゆでる実験をしたら、湯から2～3分ゆでるとよいことが分かった。
- ②調理実験を通して、根菜類のゆで方が分かる。
じゃがいもをゆでる実験をしたら、水から8分くらいゆでるとよいことが分かった。

3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。

- ◇学習した知識や技能を活用して、おいしいゆで野菜サラダ作りの実習計画を立てる。
- ◇グループで検討し、計画を修正する。



材料に合わせたゆで方を考えて作ろう。

4 題材の課題の解決に向けた実践(実習)をする。

- ◇計画に従って、調理実習を行う。
- ◇実習について、評価する。



野菜に合ったゆで方をすることができた。
野菜を切ったり、調味料を計量したりできるようになった。

5 題材の課題の解決について、まとめをしたり、振り返ったりする。

- ◇実習の報告会を通して、友達の工夫を参考に自分の実践を改善したり、題材のまとめをしたりする。

一人でオリジナルゆで野菜サラダを調理するためには、調理計画を立て、材料に合わせた調理をすることが大切だ。

- ◇題材全体の学習を振り返り、家庭での実践で生かしたいことをワークシートに記入する。

もっといろいろな野菜をゆでて、おいしいゆで野菜サラダを一人で調理して、家族に食べてもらいたい。



【家庭での実践】

中学校 第1学年

「衣生活と自立」(全10時間計画)

【目標】

衣服の選択や手入れなど実践的・体験的な活動を通して、衣服の選択、着用及び手入れに関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、衣服の計画的な活用について工夫し、自立した衣生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。

1 題材の課題を把握する。

- ◇日常の衣生活に関するアンケート結果や、衣生活について自立した姿と現在の自分との比較から、自立した衣生活を送るために必要なことやできるようになりたいことなどの問題を見いだす。
- ◇問題を基に、題材の課題を立てる。



【題材の課題】自分で、快適な衣生活を送るためには、どうしたらよいだろうか。

- ◇「自立した衣生活を送る」ために必要なことについて考え、学習の計画を立て、題材の学習の見通しをもつ。

2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

- ①②目的に応じた衣服の適切な選択の仕方が分かる。
TPOを考えて自分らしい着方を工夫する必要があることが分かった。
和服を着てみて、その特徴が分かった。
- ③環境に配慮した衣服の計画的な活用の必要性が分かる。
衣服計画を立ててみたら、無駄のない購入につながるということが分かった。
- ④既製服の選択・購入の際の留意点分かる。
既製服を選ぶ時は、組成表示やサイズなど情報を収集したり、手持ちの衣服との組み合わせを考えたりすることが必要だと分かった。
- ⑤衣服の材料に応じた日常着の手入れが分かる。
既製服を選ぶ時は、手入れの方法を考えることも必要だと分かった。



3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。

- ◇学習した知識や技能を活用して、快適で自立した衣生活を送るための実践計画を立てる。
- ◇グループで検討し、計画を修正する。

(4. 題材の課題の解決に向けた実践をする。)
【家庭での実践】

5 題材の課題の解決について、まとめをしたり、振り返ったりする。

- ◇家庭での実践の発表会を通して、友達の工夫を参考に自分の実践を改善したり、題材のまとめをしたりする。

自分で、快適な衣生活を送るためには、衣服の選択や購入、手入れ、廃棄までを見通し、資源や環境に配慮して衣服を活用する。

- ◇題材全体の学習を振り返り、これからの生活で生かしたいことをワークシートに記入する。

これからは、手入れの仕方や廃棄のことまで考えて、購入したい。



2 単位時間の作り方(「つかむ」過程)【例】

「つかむ」過程では、既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめることを通して、問題を見だし、題材の課題を立てさせましょう。

【指導のポイント】

【問題を見いださせる指導の工夫】

問題とは：

- ・題材の目標（よりよい生活）と現在の生活との違いや差
- ・目標と比較して、できていないことやもっと知りたいこと、できるようになりたいこと等

<例>

- 生活を見つめさせる。
 - ・自分の生活を見直す。
 - ・家族や地域の人へのインタビュー 等
- 客観的な資料を提示する。
 - ・教科書
 - ・統計資料
 - ・児童生徒や家族、地域等へのアンケート結果
 - ・課題につながる画像 等
(例：調理実習や幼児ふれあい体験の様子等)
- 見本となる製作品や料理等を提示する。
(例：調理や製作の完成品)
- 今までの学習を想起させる。
 - ・教科書やノート
 - ・他教科の学習 等

【「めあて」の設定】

- 学習内容が見えないため、「活動・テーマ」の要素にかかわる「めあて」が多くなる。

<例>

「見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。」

【課題を立てる際のポイント】

- 題材の学習後の姿を踏まえる。
- いくつかの問題をつなぎ合わせる。

【振り返りの視点】

- 本題材の学習終了後に、どのようなことができるようになっていきたいか考えさせ、これからの学習への意欲付けを図る。

<例>

- ・「(題材の学習を通して)○○ができるようになった。」
- ・「できないことや知らないことがあったので、これからの学習が楽しみだ。」

基本的な流れ

1 生活の中から問題を見いだす。

- 教科書や見本となる製作品等を基に、題材の目標である具体的な姿を全体で共有させる。
- 題材の目標を達成すると、どのようなよさがあるのか考えさせる。※学ぶ必要感を持たせられるようにする。
- 課題につながる問題を出し合わせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては、見いだした問題を基に課題を立て、題材を通してどのような学習をするのか見通しをもつことを伝える。

【めあて】

3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 一人一人が見いだした共通する問題を明らかにさせる。
- 共通する問題を基に、解決すべき課題について話し合わせる。

題材の課題

〈題材の目標に到達するための大きな問い〉

- 見いだした問題や教科書の学習内容を基に、大まかな学習計画を立て、題材の学習の見通しをもたせる。

4 一人一人が本時の学習の振り返りをする。

- 題材の課題と解決するための学習の計画について確認させる。
- 本時の学習の振り返りを記述させ、発表するよう促す。

単位時間の振り返り

小学校 第5学年「おいしい楽しい調理の力」 【ねらい】

土がついた生の野菜とオリジナルゆで野菜サラダの画像を比べて一人で調理することについて問題を見だし、題材の課題を立てる活動を通して、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

1 生活の中から調理に関する問題を見いだす。

- 生の野菜の画像（図1）を提示し、どうしたら食べられるようになるか考えさせる。
- オリジナルゆで野菜サラダの画像（図2）を提示して、ゴールの姿のイメージをもたせ、調理のよさについて考えさせる。

図1



図2



- これまでの調理の学習や家庭での調理経験を想起させ、疑問に思うことやできるようになりたいことなど一人で調理することについての問題を付箋紙に書かせる。



お茶を入れた時、お湯を沸かしたよ。でも、野菜のゆで方は知らないな。



野菜を洗ったり、包丁で切ったりする必要がある。どのように切ったらいいのかな。

2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。

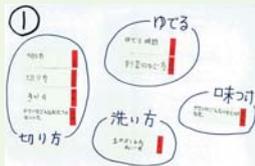
3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 見いだした問題を解決するためには、どのような課題を立てるか考え、発表させる。

【題材の課題】

一人でオリジナルサラダを作るためには、どうしたらよいらうか。

- 見いだした共通する問題や教科書の学習内容を基に、大まかな学習の計画を立て、題材の見通しをもたせる。



<学習の計画>

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 野菜のゆで方 | ④ オリジナルサラダの計画 |
| ② じゃがいものゆで方 | ⑤ オリジナルサラダづくり |
| ③ 基本のサラダづくり | ⑥ 実践の発表会 |

4 一人一人が学習の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、これからの学習で頑張りたいことをワークシートに記入させる。

- 野菜やいものゆで方を知って、おいしいサラダを作りたい。
- 野菜の洗い方やゆで方を覚えて、おいしいサラダを一人で作れるようになりたい。

中学校 第1学年「衣生活と自立」 【ねらい】

自分の衣生活について振り返って問題を見だし、題材の課題を立てる活動を通して、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

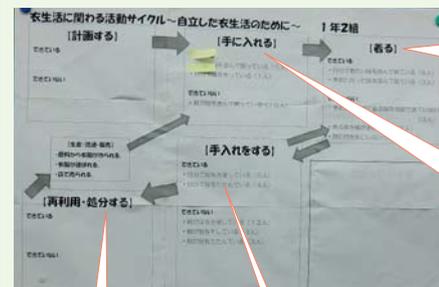
1 生活の中から衣生活に関する問題を見いだす。

- 普段の衣生活についてのアンケート結果を提示する。
- 衣生活に関わるキーワードを示したり、教科書を用いたりして、自立した衣生活を具体的に捉えさせる。

◆衣生活に関わるキーワード

「手入れ」「収納」「入手」「着る」など

- 自立した衣生活を送るために、今の自分が抱えている問題を見いださせる。
- 衣生活において、今の自分ができること、家族に任せていること、自立するために必要なこと、できないことを付箋紙に記入させる。



休みの日は自分の好きな服を着ているな。

親が服を買うので、選び方が分からない。

家に着ていない服がたくさんあるよ。

洗濯など親にまかせているな。

2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。

3 見いだした衣生活の問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 各自が見いだした問題を、衣生活に関わるキーワードを基に、整理・分類させ、共通する問題を見いださせる。
- 見いだした問題を解決するためには、どのような課題を立てるか考え、発表させる。

【題材の課題】

自分で快適な衣生活を送るためには、どうしたらよいらうか。

- 課題を解決するためには、どのような学習が必要か考えさせ、学習の見通しをもたせる。



4 一人一人が学習の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、本題材の学習を通して、どのようなことを学びたいか、ワークシートに記入させる。

- 自分ができることや知らないことがたくさんあった。自分の服を自分で選べる方法を知りたい。
- 衣服の再利用ができるように頑張りたい。

2 単位時間の作り方（「追究する1」過程：知識及び技能の習得）【例】

「追究する1」過程（知識及び技能の習得）では、実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けさせるようにしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

- 「追究する1」過程では、「活動・テーマ」の要素を含んだ「めあて」の設定が多くなる。
 - 「①どんな活動を通して、②何を学習するのか」が具体的に分かるようにする。
- <例> 「○○（実践的・体験的な活動）を通して、△△について～しよう。」

【実践的・体験的な活動の充実】

- 課題解決に向けて、試行錯誤したり、実物に触れたり、観察したりさせるようにする。
- 活動の手順や方法等については、教科書で確認をさせたり、視覚的に分かりやすく提示したりする。
- 一人一人が十分に活動できる工夫をする。

<学習形態の例>

- ・実習班の人数を少なくする
（ペア調理、学級を半分ずつに分ける等）

<学習環境の例>

- ・全員が体験できるミシンの台数を確保する
- ・手順の掲示・ICT機器の活用等

【各自の気づきからのまとめ】

- 活動を通して気付いたことの根拠を明らかにさせる。

<例>ほうれん草は、ゆでる前と比べて、かさが減った。

- 実習等で体験したことを書いたり、説明したり、話し合ったりさせる。
- 児童生徒の気づきを、本時のまとめにつながるように、整理しながら板書する。
- 理解させたいことに気付かない場合には、グループで話し合わせたり、教師がねらいにせまる問いかけをしたりする。
- 児童生徒の気づきから一般化した言葉でまとめる。

<例>

ほうれん草をゆでることを通して、ゆでる調理の仕方を理解させる場合

（気づき）ほうれん草は湯からゆでるとよい。

→一般化した言葉によるまとめ

ほうれん草などの葉物の野菜は、湯からゆでる。

【振り返りの視点】

- 分かったことやできるようになったこと、生活に生かしたいこと、もっと知りたいこと、やってみたいことなどを考えさせる。

<例> ・「○○の仕方が分かった・できた」等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認させる。
- ノートやワークシートの記述、教科書等を確認しながら、前時までの学習を想起させる。

【めあて】

2 実践的・体験的な活動を行う。

- 活動のねらいや手順、注意事項を確認させる。
- 一人一人が気付いたことを言葉や図表等を使い、ワークシート等に自分の言葉で書かせる。

3 全体で共有し、まとめる。

- 一人一人が気付いたことを言葉や図表等を使い、グループや全体で発表させる。
- 理解させたいことに児童生徒が気付かない場合には、教師が問いかけたり教科書等で確認をさせたりする。
- 課題解決のために必要な基礎的・基本的な知識を次の学習や家庭・地域などの生活の様々な場面で活用できるように、児童生徒の気づきを、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

4 本時の振り返りをする。

- 本時で分かったことやできるようになったことを確認させる。
- 本時の学習の振り返りを記述させ、発表するように促す。
- 次時への予告をする。

単位時間の振り返り

小学校 第5学年「おいしい楽しい調理の力」 【ねらい】

ほうれん草をゆでる調理の実験を通して、青菜のゆで方について理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

ほうれん草をゆでる実験を通して、青菜に合ったゆで方を探ろう。

2 班でほうれん草をゆでる実験を行う。

- ほうれん草は水からゆでるか、お湯からゆでるか、どのくらいゆでたらよいか予想を立てさせる。
- 水からと湯からの違い、ゆでる時間（2分、5分）の違いを比較させる。
- 試食の時、適切なゆで方をした青菜を用意して比較させる。



ほうれん草は、根の方から鍋に入れよう。

ゆでた時間で歯ごたえが違うな。長くゆですぎると、歯ごたえがなくなる。



水から長くゆでると、色が悪くなるよ。



ゆでると緑色が濃くなっている。

- 一人一人が気付いたことをワークシートに書かせる。
- 実験の結果を根拠に、適切なゆで方についてまとめさせる。

5分間だと、色も悪くなったし、歯ごたえもないので、2分間でゆでるのがいいね。(下線が根拠となる部分)



3 どのゆで方が適切だったか意見交流し、まとめる。

- ほうれん草のゆで方について気付いたことを発表させる。
- ほうれん草のゆで方で気付いたことを基に、青菜のゆで方について、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

青菜は、湯から2～3分くらいゆでる。また、ゆでるとやわらかくなり、かさが減り、色がよくなる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、「青菜のゆで方で分かったこと」をワークシートに記入させる。

- 沸騰した湯からゆでればよいことが分かった。
- ゆでるとかさが減るので、たくさん食べられることが分かった。

○次時は、じゃがいものゆで方の実験をすることを伝える。

中学校 第1学年「私たちの消費生活」 【ねらい】

身近な消費生活の場面において、消費者として自分ができることを話し合う活動を通して、消費者の権利と責任について理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

身近な消費生活の場面で、消費者として自分ができることは何かについて考えよう。

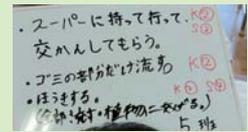
2 消費者として自分ができることを話し合う。

- 身近な消費生活の場面について、自分たちだったらどうするか、グループで話し合わせる。

◆身近な消費生活の場面<例>

- 自動販売機でコーラのボタンを押したら、温かいお茶が出てきた。
- 店で水（ペットボトル）を購入した。家に帰って中身をよく見たら、白いゴミが少し浮いていた。まだ、蓋は開けていない。
- シャンプーを買いに行ったら、通常のものと同様の詰め替え用のものが、同じ値段で売られていた。

- グループで話し合ったことを発表させ、共有させる。
- 一人一人が気付いたことをワークシートに書かせる。



自動販売機で表示と異なるジュースが出てきた時は、きちんと主張しないと、他の人も被害にあってしまうね。



買う物を選ぶ時には、環境のことを考えることも大切だな。

3 一人一人が気付いたことを発表し、まとめる。

- ワークシートに書いたことを発表させ、どのような消費者の権利と責任があるか考えさせる。

○消費者の権利

- 安全を求める権利
- 健全な環境を享受する権利

○消費者の責任

- 主張し行動する責任
- 環境への配慮をする責任

- 他にも、消費者の権利と責任があることを知らせる。
- 「消費者の権利と責任」を基に、消費者としてできることを考えさせ、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

- よりよい消費生活を送るために、消費者の権利と責任について理解し、行動することが大切である。
- 消費者として適切に主張し、行動する責任を果たすことで、消費者被害の拡大を防ぐことができる。

4 本時の学習の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、分かったことや消費者としてこれからどのように行動したらよいか考えたことをワークシートに記入させる。

- あきらめないで意見を言うことは、みんなのためにもなることが分かった。
- 環境への配慮をする責任を果たすために、詰め替え用の商品を選ぶようにしたい。

2 単位時間のつくり方 (「追究する2」過程：実践(実習)計画の作成について)【例】

「追究する2」過程(実践(実習)計画の作成)では、主に「追究する1」過程で学習した知識及び技能を活用して、生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりするための計画を作成させるようにしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

- 「追究する2」過程(実践(実習)計画の作成)では「活動・過程」の要素を含んだ「めあて」が多くなる。
- <例>
「~~~~できるように、〇〇の実践(実習)計画を立てよう。」等

【実践(実習)計画の立て方】

- 実践(実習)の方法や手順等について、教科書を参考にさせる。
- 布を用いた製作の計画を立てさせる際は、製作物の見本や段階見本を示す。
- 実践(実習)によって、個人で計画する場合とグループで計画する場合がある。

<実践(実習)計画の例>

- ・調理実習計画 ・製作実習計画
- ・買い物計画 ・幼児との触れ合い計画
- ・「快適な住まい方」についての実践計画等

【検討の視点】

- 検討の視点を児童生徒に考えさせたり、教師が示したりする。
- <検討する際の視点の例>
 - ・目的に合っているか
 - ・既習の知識や技能を活用しているか
 - ・題材の課題や個人の課題の解決につながっているか
 - ・よりよい生活になっているか
- 活発な交流ができるように、学習形態を工夫する。
- <例>
ペア、班、作品別や課題別グループなど
- 外部講師からアドバイスをしてもらう場合もある。

【振り返りの視点】

- 計画を立てたり、検討・改善したりしたときの場面を振り返らせ、新たに気付いたことや工夫したこと、実践(実習)でがんばりたいことを考えさせる。
- <例>
 - ・「〇〇について、教えてもらった方法にしたら、うまくできそうだ。」
 - ・「工夫したことは、~~~~だ。計画通りに実践ができるようにがんばりたい。」

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習の計画における本時の位置付けを確認させる。

【めあて】

2 課題解決のための実践(実習)計画を作成する。

- ノートやワークシート、教科書等を振り返らせる。
- 前時までに習得した知識及び技能を活用して計画を立てさせる。

3 実践(実習)計画について検討し、改善する。

- 児童生徒同士で計画について、意見交流をさせ、よりよい計画になるよう検討し合わせる。
- 検討したことを踏まえて、計画を改善させる。
- 課題を解決することができる計画になっているか確認させる。



4 本時の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、ワークシート等に記述させ、発表するように促す。

単位時間の振り返り

小学校 第5学年「物を生かして住みやすく」 【ねらい】

クリーン大作戦の実践計画を立てる活動を通して、家族が気持ちよく生活ができるように住まいの整理・整頓や清掃の仕方について考え、工夫することができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 家族へのインタビューなどを踏まえて、事前に考えた各自の課題（クリーン大作戦を実践する場所とその理由）を確認させる。

（各自の課題の例）

家族が出かける時に気持ちのよいピカピカな玄関にしたいな。

【めあて】

家族が気持ちよく生活できるように、「クリーン大作戦」の計画を立てよう。

2 課題解決のための実践（実習）計画を作成する。

- 教科書やプリント、掲示物等を用いて、既習事項を確認させる。

◆既習事項

- ・住まいの整理・整頓の仕方
- ・住まいの掃除の仕方
- ・環境に配慮した物の使い方



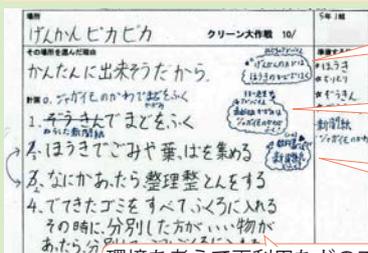
- 既習事項を活用して課題の解決に向けた計画を立てさせる。

3 実践計画についてグループで検討し、改善する。

- 3～4人グループになり、掃除をしている自分の姿を具体的にイメージしながら、実行方法や手順などを発表させたり、気付いたことをアドバイスさせたりする。
- よりよい計画となるように、改善策を話し合わせる。

<検討の視点>

- ・課題を解決できる実践計画になっているか
- ・◆既習事項を活用しているか



友達のアドバイスをメモしておこう。

窓ふきは新聞紙を使うといいよ。

ほうきではなく前に、靴を片付けた方がいいよ。

環境を考えて再利用などの工夫をしてみるといいね。

- 検討したことを基に各自の計画を見直し、改善させる。
- 家族が気持ちよく生活できるようにするための実践の計画となっているか確認させる。
- シミュレーションをさせ、計画どおり実践できるか確かめさせる。

4 本時の振り返りをする。

- 計画を立てたり改善したりしたときに、家族が気持ちよく生活できるようにするために気付いたことや工夫したことを振り返らせる。

- 話し合ってみて掃除の手順が大切だと気付いた。
- 油污れは古い布や新聞紙でまずふき取るとよいと教えてもらったので、環境のためにも実践したい。

中学校 第1学年

「日常食の調理－前橋とんとん弁当を作ろう－」

【ねらい】

自分や家族の生活スタイルに合わせた弁当づくりの実践計画を立てる活動を通して、1食分の調理について考え、工夫することができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- どのような弁当にするのか、事前に考えた各自の課題を確認させる。

（各自の課題の例）

疲れていても頑張れるように肉と野菜を多めに食べられる「エネルギー満タン弁当」を作りたい。

【めあて】

自分や家族の生活スタイルに合わせた弁当づくりの計画を立てよう。

2 課題解決のための実践（実習）計画を作成する。

- 教科書やワークシート、試しの弁当づくりの画像を掲示し、弁当づくりのポイントや既習事項を確認させる。



試しの弁当

（しょうが焼き、蒸し野菜、青菜としらすのおひたし、ごぼうとにんじんのきんぴら）

◆既習事項

- ・肉の調理の仕方
- ・6つの基礎食品群など、食品の栄養的特質
- ・献立の作成の方法

- 既習事項を活用して課題の解決に向けた計画を立てさせる。

3 実践計画についてグループで検討し、改善する。

- 4～5人グループになり、計画について検討し合わせる。

<検討の視点>

- ・課題を解決できる弁当になっているか
- ・◆既習事項を活用しているか



ハンバーグがあるので、肉をたくさん食べられるから課題にあってるね。中までしっかり火が通るように調理するといいね。



頑張るためにはエネルギーが必要なので、5群の食品を多めにした方がいいね。



2群の食品が不足しているから、海苔やチーズなどの食品があるといいね。

- 検討したことを基に、各自の計画を見直し、改善させる。

2群の食品を補うために、ご飯の上に、海苔をのせることにしました。

5群の食品を多めに食べられるように、スパゲッティナポリタンを追加しました。



4 本時の振り返りをする。

- 計画を立てたり改善したりしたときに、自分や家族の生活スタイルに合わせた弁当づくりについて気付いたことや工夫したことを振り返らせる。

- 栄養バランスだけでなく、目的に合わせて食品を選択することが大切だと気付いた。
- 栄養バランスのよい弁当にするために工夫したことは、友達の意見を参考に、2群の海苔を追加したことだ。

2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、課題の解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて改善方法を考えるなど、実際の生活で生かせるようにしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○本時で家庭や地域の実践につながるまとめとなるように、「活動・テーマ」の要素に係る「めあて」が多くなる。

<例>

「〜（課題を解決）するために、これからの生活でできることは何か考えよう。」

【改善策の検討】

○自分の考えの根拠や理由を明確にして改善策を考えさせる。

○学んだことを実際の生活で生かす視点で改善策を考えさせる。

<改善策を考えさせる際の視点の例>

- ・目的にあった実践をするためには、どうすればよいか
- ・よりよい生活を送るためには、協力・健康・快適・安全、生活文化の継承などの視点から、工夫するとよいことはあるか
- ・（製作の場合）もっと使いやすくするためには、どのような工夫をするとよいか

【題材の課題についてのまとめ】

○題材の初めの姿と比較し、題材を通して自分が成長したことを実感できるようにする。

<例>

「題材の課題」を解決するためには、〜する。

【振り返りの視点】

○題材全体の学習を振り返って、分かったことやできるようになったこと、これからの生活で生かしたいことを考えさせる。

<例>

- ・「〇〇について、もっと〜にしたい。」
- ・「今度は、〜〜にしてみたい。」

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習の計画における本時の位置付けを確認させる。
- 本時は、題材の学習のまとめであることを確認させる。
- 前時の実践（実習）を想起させる。

【めあて】

2 実践の評価を基に、改善策を検討する。

- 自分で評価したことについて児童生徒同士（ペアやグループ）で意見交流をさせる。
- 課題を共有し、改善策について、個人で考えさせたりグループで話し合わせたりする。
- 「もっと〇〇したい」「今度は〇〇をしてみたい」「〇〇にするにはどうすればいいのだろう」など、新たな課題を見つけ、全体で共有する。



3 題材の課題についてのまとめをする。

- 題材の課題を提示する。

【題材の課題】

- 教科書やノート、ワークシート等を振り返り、題材の学習を通して、できるようになったことや分かったことを確認させる。
- 題材の課題について解決ができたか確認させ、実際の生活につながるまとめをする。

【題材の課題】のまとめ

4 題材全体の学習について振り返りをする。

- 題材全体の学習を振り返り、ワークシート等に記述させ、発表するように促す。

題材全体の振り返り

小学校 第6学年（家族・家庭生活についての課題と実践） 「地域の一員として、できることをやってみよう」

【ねらい】

地域での実践を評価・改善することを通して、自分や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものか考え、新たな課題を見付け、実際の生活につなげることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

地域での実践の発表会を通して、地域の人々とよりよく生活するために、実践できることは何か考えよう。

2 地域での実践の評価を基に、改善策を検討する。

- よくできた点や工夫した点、改善点をワークシートに記入させる。



相手のことを考えてプレゼントを作ることができた。渡したら喜んでくれたので、うれしかった。



計画通りにできた。色や形をもっと工夫した方がよかった。

- ペアで交流した後、グループで発表し、改善策やこれからの生活に生かしていきたいことを話し合わせる。



今回は、コースターを作ったけれど、ティッシュケースの方が生活に役立ったかもしれない。



友達はプレゼントと言葉で感謝の気持ちを伝えていたな。これからの生活で、地域の人との会話を増やしていきたいな。

- 新たな課題を見付け、全体で共有する。



他にもお世話になっている地域の人がいることに気付いた。感謝の気持ちを伝えたいな。

3 題材の課題についてのまとめをする。

- 題材の課題を提示する。

【題材の課題】

地域の人との関わりを考え、気持ちを伝えよう。

- ワークシートを振り返り、題材の学習を通して、分かったことやできるようになったことを確認させる。
- 「つかむ」過程で立てた自分の課題が解決できたか確認をさせる。

【題材の課題】のまとめ

自分にできることを考えて、地域の人に感謝の気持ちを伝えることで、地域の人々とよりよく生活することができる。



4 題材全体の学習について振り返りをする。

- 題材全体の学習を振り返り、地域の一員としてできることを考え、ワークシートに記入させる。

- 地域の行事に参加したり、あいさつをしたりすることで、地域の人との関わりを増やしたい。
- 自分にできることで、地域の生活に協力したい。

中学校 第1学年「衣生活と自立」

【ねらい】

家庭実践について評価・改善することを通して、自分で快適な衣生活を送れるようにするための新たな課題を見付け、実際の生活につなげることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

自立した衣生活を送るために、これから実践できることは何か考えよう。

2 家庭での実践の評価を基に、改善策を検討する。

- 家庭での実践の評価について、グループで意見交流をさせる。



自分で洗濯ができた。泥汚れのひどい所は、部分洗いをしたら、いつもよりきれいになった。

自分の衣服点検ができた。小さくなっている服があることに気付いた。



- 課題を共有し、改善策について話し合わせる。

友達は風呂の残り湯を利用して水を節約していた。環境のことを考えた洗濯を考えたい。



たたみ方だけでなく、取り出しやすい収納の仕方にも気を付けたい。



- 新たな課題を見付け、全体で共有する。



小さくなった服があったから、それらを活用する方法を考えたい。

3 題材の課題についてのまとめをする。

- 題材の課題を提示する。

【題材の課題】

自分で快適な衣生活を送るためには、どうしたらよいだろうか。

- ワークシートを用いて、題材を通して分かったことやできるようになったことを発表させる。
- これから自分が衣生活についてどのように実践していきたいか交流させ、実際の生活につながるまとめをする。

【題材の課題】のまとめ

自分で快適な衣生活を送るためには、衣服の購入から廃棄までを見通し、資源や環境に配慮して衣服を活用する。

4 題材全体の学習について振り返りをする。

- 題材全体の学習を振り返り、自立した衣生活について考えたことをワークシートに記入させる。

- 衣服の再利用の実践が参考になった。今度、ほくも衣服の再利用について工夫してみたい。
- 自立した衣生活のためには、購入だけでなく、廃棄まで考えることが大切だと思った。これからは、衣服の廃棄まで考えて、購入していきたいと思う。

3 学習過程と教科書との関連

家庭科の教科書は、課題を解決する過程に沿って構成されています。例えば、生活の中から課題を設定できるヒントがあったり、課題を解決するための方法や手順、まとめ方の例などが示されたりしています。

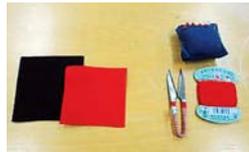
また、家庭科の教科書には、包丁の使い方や消費者としての権利と責任など、学習指導要領には記述されていない身に付けさせたい具体的な知識が詳しく記載されています。他にも、多くの調理例や実践例などの写真や図などが掲載されています。従って、教科書を参考に、児童生徒の実態に合わせて、学習内容を取捨選択し、題材を構成しましょう。

そこで、教科書を参考に、どのような学習をするのか、どのような知識及び技能を身に付けさせるのか、それらを活用して何ができるようになるのかを明確にして、題材の目標や指導計画を作成しましょう。

以下の表は、各過程における教科書の活用例です。教科書を有効に活用し、指導の充実を図りましょう。

過程	活用例
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の様子、調理や製作物の画像を見て、題材の学習後の目標や理想の姿を共有させる。 ・身近な生活の様子のイラストや画像を基に、自分の生活を見つめ、問題を見いださせるようにする。 ・既習事項を確認させたり、題材の大まかな学習内容を把握させたりする。
追究する 1	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の切り方や縫い方などの画像を見て、課題の解決に必要な知識や技能のコツを見つけさせる ・実践的・体験的な活動を通した気づきを基にまとめたことを再度確認させる。
追究する 2	<ul style="list-style-type: none"> ・実践（実習）計画を立てさせる時に、既習事項を確認させる。 ・調理や製作の計画を立てさせる時に、教科書の調理例や作品例を参考にさせる。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめや家庭・地域での実践についてまとめさせる時に、学習をまとめたワークシートなどの例を参考にさせる。 ・解決方法の改善策について考える時に教科書の内容を参考にさせる。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫	
学習に集中したり、持続したりすることが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料を必要最小限に抑えて準備する。 ・整理・整頓された学習環境で学習できるように工夫する。 	 <p>必要最小限の道具</p>
活動への関心をもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示する。 ・体感できる教材・教具を活用する。 	
周囲の状況に気が散りやすく、包丁、アイロン、ミシン等の用具を安全に使用することが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・手元に集中して安全に作業ができるように、個別の対応ができる作業スペースや作業時間を確保する。 ・安全への配慮を徹底するために、実習中の約束事を決め、随時、児童生徒が視覚的に確認できるようにする。 	 <p>安全への配慮を徹底するための掲示物</p>
調理や製作等の実習を行う際、学習活動の見直しをもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に確認ができるようにするために、個に応じた段階的に手順を写真や図で提示する。 	
グループで活動することが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と協力できるようにするために、協力する具体的な内容を明確にして役割分担をする。 ・役割が実行できたか振り返ることができるようにする。 	 <p>手順が分かる掲示物</p>

5 情報活用能力の育成

※家庭科における情報とは・・・身の回りにある人やもの、日常生活に必要なものやことなど

- 〈例〉・家族や地域の人、地域の行事・食品や食品に含まれる栄養、料理やそのレシピ
 ・布を用いた物やその作り方 ・住まいに関すること ・金銭や価格
 ・環境など

情報の収集

○課題を解決するための情報を集める。

〈活動例：みそ汁に入れる油あげを選ぶ〉

- ・収集する情報：値段、量、賞味・消費期限、原材料、表示等
- ・収集する手段：商品の品質表示やパッケージ

◆情報を収集する手段

- ・情報通信ネットワーク
- ・家族や地域を人のインタビュー
- ・商品の品質表示等
- ・教科書や資料 等

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

○収集した情報を、目的に合わせて整理する。

〈活動例：油あげの情報を整理・比較する〉

- ・油あげの情報を表にまとめて整理する。
- ・油あげAは量が多いけど、使いきれかな。
- ・油あげBは少し高いけど、国産大豆だよ。
- ・油あげCは安いけど、消費期限が明日だ。

情報の発信・伝達

○整理・分析した情報を、発表・発信し、共有する。

〈活動例：選んだ食品とその理由を発表する〉

- ・地産地消がよいから油あげBにしよう。
- ・明日食べるなら、消費期限が明日でも大丈夫なので、油あげCにしよう。

基本的な操作（例）

○情報を収集する学習

⇒解決方法について調べる際、情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧

○情報を整理・比較する学習

⇒デジタルカメラやタブレット端末による画像や動画の撮影及び繰り返し再現

○情報の発信・伝達の学習

⇒調査・観察・実習・実践等のまとめや発表用の資料の作成

情報モラル・セキュリティ

インターネットを介した通信販売や消費者被害への適切な対応の仕方に関する個人情報の取り扱い方等

プログラミング

○プログラミング的思考の育成・課題解決のために、どのような手順や組み合わせがよいのか考えさせる。

〈活動例「ご飯をおいしく炊くためのプログラミング体験」〉

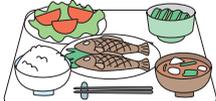
- ・炊飯の一連の操作について理解を深めるとともに、調理計画を工夫する必要があることに気付くようにする。
- ・自動炊飯器の中には、温度管理等のプログラムが組み込まれていることや、家電製品などにコンピュータ(プログラム)が活用されていることに気付くようにする。

※コンピュータ上でソフトを用いてプログラミング体験ができると、実習前に手順や条件を試行錯誤しながら確認できる。



6 地域の人材や物的資源の活用

家庭や地域と積極的に連携を図り、地域の人材や物的資源を積極的に活用することで、効果的に学習が進められるようにしましょう。

学習指導要領の内容	関係施設や団体等	実施可能な主な内容
A 家族・家庭生活 	県老人福祉施設協議会 027-255-6034	介護の仕事や介護の疑似体験等
	地域の幼稚園、保育所（園）、認定こども園 保育士、幼稚園教諭等	幼児との触れ合い体験 幼児の心身の発達等に関わる講演
	地域の団体、敬老会、公民館等	地域の人々（高齢者）との触れ合い体験等
B 衣食住の生活    	群馬県食生活改善推進員連絡協議会 群馬県保健予防課内 027-897-2967	地域の食生活改善推進員による郷土料理の調理実習等
	一般社団法人和食文化国民会議 03-5817-4915	だしの役割など和食に関する出前授業等
	学校栄養士、栄養教諭	食物アレルギーの事故防止 栄養バランスを考えた食事のとり方 1食分、1日分の献立作成の方法 調理に必要な用具の安全で衛生的な取扱い その他食に関する指導全般 〈参考：食に関する指導の手引-第二次改訂版-〉
	和食の調理師	和食についての学習
	NPO 法人和装教育国民推進会議 群馬支部：桐生織物協同組合内 0277-43-7171	浴衣着付け体験等
	衣料品の生産・販売に関する企業	衣服の選択、活用、リサイクル等
	保護者や地域の方（公民館のサークル等）	手縫いによる製作やミシンを用いた製作等
	洗濯洗剤に関する企業	洗剤の働きと環境への影響 界面活性剤が汚れを落とすしくみ 環境に配慮した消費生活 環境のことを考えた快適な暮らし等
	クリーニング店	汚れの落とし方の実習やアイロンのかけ方等
	NPO 法人住・環境支援ネット 027-325-6085	室内の温度や湿度、明るさ調べ 通風や換気の実験 家具の配置や固定方法などの安全な住まい方の工夫等
住宅メーカーなどの企業	住まいの役割や機能、快適な住空間等（明るさ、温度、湿度、音）	
清掃に関する企業	掃除の役割、掃除の仕方等	
C 消費生活・環境 	群馬県消費生活課(消費生活センター) 027-226-2281	若年層消費者被害防止出前講座
	群馬県廃棄物・リサイクル課 027-226-2852	循環型社会づくりに向けた取組の紹介等